

安庭小学区に残されている「戸沢氏伝説」、「八郎太郎伝説」、その他

※本校の学区に残されている上記の伝説等を紹介します。

○ 戸沢氏伝説から

＜鳥谷森＞

鳥谷森は、昔は遠矢森といいました。昔、雫石城の殿様は弓の名人でした。お城で射た矢がしばしばこの地まで飛んで来ました。そこで、この地名がついたといわれています。

＜九日餅を28日につく話＞

御所地区では、9月29日の九日餅を前の日につく地区があります。戸沢公が南部勢に敗れ秋田に逃れる時が29日だったので、「長い間世話になった殿様に九日餅でも食ってもらうべ。」と28日につくことになったといわれています。

○ 八郎太郎伝説から

※巨人伝説は、全国各地に残されています。関東では「ダイダラボッチ」、九州では「大人弥五郎」。雫石の巨人伝説は「八郎太郎」で、もともと十和田湖の主だった八郎太郎は、南祖坊と戦って負けて好摩後に逃れ、七窪から土を運んで北上川をせき止めようとして失敗して滴石へやって来ました。

＜じゃ型くらと九十九沢＞

九十九沢の地に来た八郎太郎は、「もしここに沢が百あったらここを住家にしよう。」と蛇の姿にまって数えましたが九十九しかありませんでしたのでやめました。

八郎太郎が蛇の姿でうろうろしているのを見たこの地の守り神様、墓どこ森の権現様は、「こんな化け物がこの辺に居られては大変。」と、山の上から大きな岩を投げつけました。桂部落の田んぼの中の大きな岩はその時の岩で、「夫婦石」と呼んでいます。九十九沢の山の上に見える蛇型くらはその時の八郎太郎の姿だといわれています。

○ その他

＜化け石碑＞

片小沢の県道の側に梵字一字だけの上部が斜めに欠けた石碑があります。中世に建立されたもので、町内で最も古いものと思われます。ある日のことです。代官所に勤める若い武士が急用で鶯宿に出かけることとなりました。晩秋の夕暮れのことです。片小沢に化け物が出るという噂は聞いていましたが、彼は免許皆伝の腕前を持つ名の知られた武士でした。

片小沢の近くに来るとヒタヒタと後をつける者があります。振り返って見ると、青白い光の中に若い女の姿が見えたと思ったらパッと消えてしまいました。目の迷いかと思って一歩踏み出すと、供養碑の傍にたたずんでいる女の姿が青白い光の中にはっきりと見えます。狐狸のいたずらだろうと腕に自信のある彼は、抜く手も見せず斬りつけました。カチリと音がして、女の姿は消えてしまいました。若侍が鶯宿に一泊して翌日帰る途中片子沢石碑を見ると、斜めに欠けていました。若侍は昨夜の化け物はこの石だったのかと思いました。

その後、若い女の出る話はなくなったと伝えられています。

（出典…雫石町史 片小沢、片子沢と原文のまま表記しています。）